

第1章

消費者行動理論

我々消費者は、一定の予算の下で、自身の満足度を最大化するような消費計画（最適消費）を選択する。その消費計画を決める上で重要となる「無差別曲線」と「予算制約線」について学ぶ。次いで、所得や価格が変化することによる財の需要量の変化を調べることで、財の分類を行う。さらに、2財モデルを応用し、①最適な労働時間の決め方（最適労働供給）、②現在と将来という2つの時点を想定して、どのような消費を行えば効用が最大になるか（異時点間の最適消費）について考えていく。

0 はじめに

1 どのように勉強を進めるべきか？…まずは大掴みのイメージを作ろう！

経済学（マイクロ、マクロ経済学から構成される）は、

①図、②式（数式・文字式）、③文章

の三位一体で理解する。

最初の学習段階では図をつかって理解するのが基本かつ最も大切。ほぼすべての理論において、1つの項目に少なくとも1つの頻出の図が登場する。ゆえに、図を理解することが第1目標！

2 ミクロ経済学の全体像（マイクロ＝微視的：小さい目で見ると）

ミクロ経済学とは、ある市場で、どのような取引が行われるか、すなわち、価格と取引数量がどのように決定されるかを分析する学問。

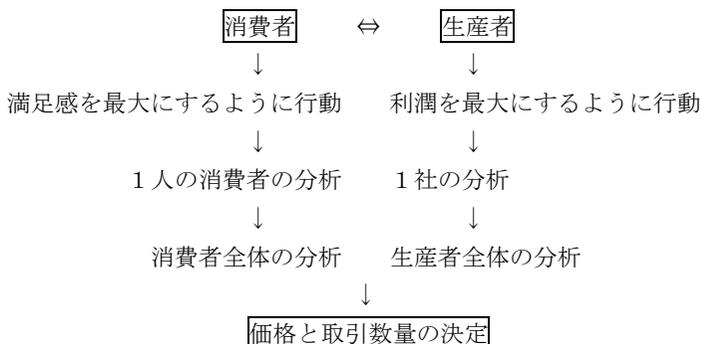


（参考）マクロ経済学（マクロ：巨視的：国民所得の大きさを調べる）

⇒特定の商品の取引を考えるのではなく、1国全体での生産や消費を考える（マクロ経済学については後の回で説明します）

「ミクロ経済学の全体像」

登場人物	…	消費者	（財を買いたいと思っている人、家計ともよばれる）
		生産者	（財を売りたいと思っている人、売るために財を作る人でもある）
		政府	（ここでは脇役、消費者や企業が困った時に登場）
舞台	…	市場	（しじょう）（財を取引する場所、消費者と生産者が出会う場所）
アイテム	…	財	（交換されるモノ・サービスなど）



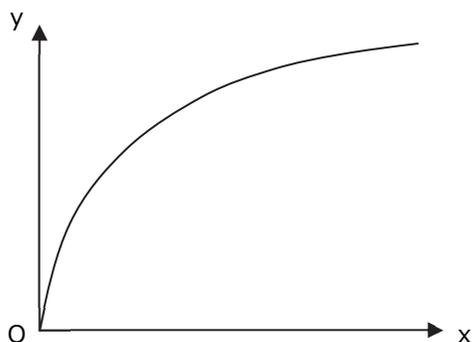
ここで簡単にミクロ経済学のストーリーの紹介をする。

- ① 消費者行動理論 …満足感を最大にするように行動
- ② 生産者行動理論 …利潤を最大にするように行動
- ③ 市場理論 …消費者と生産者との出会いの場
⇒消費者も生産者も自己中心的に行動すると、まとまる話もまとまらない！どうする？
- ④ 市場の失敗 …困った事態に遭遇。問題解決のために登場するのが、「政府」！

3 これからの授業のために大事な<経済数学の基礎>

中小企業診断士の経済学では計算問題は少ないものの、微分の知識が必要なこともある。そこで、微分の意味について最低限の復習をする。

微分……関数において、ある変数が「ほんの少し」だけ変化したときに、別の変数がどれだけ変化するかを求めること。直線（例： $y = 5x + 10$ ）で考えると、直線の傾きを求めればよいことは直観的にすぐわかる。



⇒ 曲線の場合は線上のどの場所を選んでも傾きが違う。
では曲線上の各点における傾きはいくら？ ⇒これを求めるために微分する。

「基本公式」

$Y = aX^b$ … 「aかけるXのb乗」 これをXで微分すると、

$$\frac{\Delta y}{\Delta x} = b \cdot a X^{b-1}$$

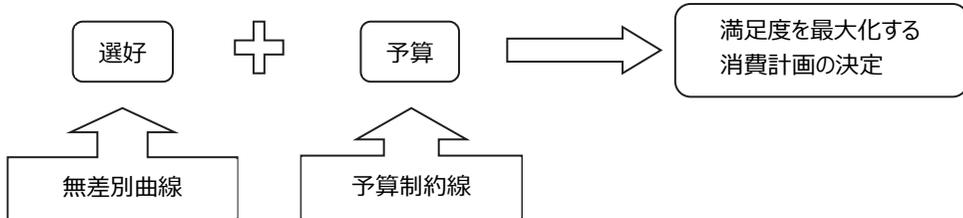
$\frac{\Delta y}{\Delta x}$ は、「YをXで微分する」を意味し、xがほんの少し変化したときのyの変化（=グラフの傾き）を表わしている。

とりあえず、現在は、微分についてはこのくらいで十分である。

1 最適消費

世の中には多くの財が存在する。その中で、私たちは消費計画（何をいくつ買うか）をどのように決めているだろうか。その上で重要となるのが、「選好（好み）」と「予算」である。私たちの持つお金には限りがあるから、無限に財を購入することはできない。そこで、決められた予算内で財を購入することを考える。その際、財の種類は複数あるから、各人の選好（好み）に従い、自らが最も満足する購入量の組み合わせを考えることになる。

ここでは、選好と予算を、それぞれ「無差別曲線」「予算制約線」という道具を使って考えていく。



効用

財を消費することで得られる満足度のことを効用（Utility）という。効用という概念は、経済学上のフィクションである。効用を個人間で比較することはできない。

1 財モデル

X財消費量	0個	1個	2個	3個	4個	5個
効用 U	0	10	16	20	23	25

上の表を図示すると、下図のように、上に凸の効用曲線が描かれ、財の消費量の増加につれて、効用の増加は小さくなることがわかる。このとき、1個余分に消費できたら得られるであろう効用の増加分のことを、**限界効用（Marginal utility）**という。一般に、財の消費量が増加するにつれて限界効用は減少するという法則が成立する。これを**限界効用逓減法則**という。

なお、経済学では、「限界～」という用語が至る所で登場するが、

「限界～」＝ 数学的には微分 ＝ 接線の傾き
と理解しておいてほしい。

